

会員の広場



家事は数学だ

安間 孝信（東京）

私の朝は忙しい。朝は五時半に起床する。既に起きている家内は洗濯物をたたむ等して我家の一日は始まる。このあと六時に家内はラジオ体操に行き七時頃返って来る。帰って来る迄に新聞に目を通し、洗濯物を取り出して干し、食器洗い機から食器を取り出し、食器棚に仕舞い、朝食の下準備をする。新聞に目を通す時間にもよるがかなり

テキパキと片付けなければ間に合わない。
以前、私は何もしなかったが時間はたっぷりある。一方家内はコミュニケーションが出来上がって居てそれなりに毎日を活動的に過ごしている。そんな活動的な家内を暇な私が家事の手伝いをする事は至極当たり前なのだ。家内が毎日を忙しく活動的にして居る事は私にとっても嬉しい事である。

そこで手始めに洗濯物を干すことに成った。家内が洗濯機から洗い終わった洗濯物を籠に入れて渡してくれたものを二階のベランダで干すのだ。洗濯ものは大まかにハンガーで干すシャツ類、角ハンガーに干すズボンなど、それに竿に干すタオルやシーツと三種類ある。籠からハンガーに竿に角ハンガーにといちいち屈んで歩いてそれぞれを干す。それなりに時間が掛かる上に草臥れる。

そこで効率を考えた。ハンガーの物はひとまとめ、角ハンガーのグループもひとまとめ、竿に干

すものはこれでひとまとめとグループ分けにした。共通項どうしを括弧でまとめるつまりは「因数分解」だ。

次に共通項で括られた洗濯物は今度は「分配の法則」に移る。角ハンガーに吊るしたジーンズのような厚手の物は洗濯ピンチを四つ使い前と後ろが重ならない様に、長い物と短い物は交互にしてつまり風通しが良い様に早く乾かすために止める位置を分配する。これは重要だ。

次に珈琲の準備に掛かる。これは幾何の問題を解くときに引く「補助線」だ。珈琲を淹れながらこの後の作業を考えるキッカケと成る。

我家の珈琲は自分で言うのも何だが相当うまい。人数分を計量してその都度ミルで挽く。これを朝食が始まるタイミングに合わせて淹れる。「そばは打ち立て茹でたて」と言うが珈琲は「挽きたて淹れたて」なのだ。

ラジオ体操から帰って来た家内はこのように準備して置けば効率よくあつと言う間に朝食が出来上がる。毎日続けた事に依りかなり自動的に手足を動かすことが出来る様になった。

数学は、解にたどり着く方法は何通りもあるものをすつきりと簡潔に美しい数式で表す。

考え方、方法を整理する事を学ぶものだ。

その意味で家事も「因数分解」をし、「分解の法則」を使い、「補助線」を引き効率を考え目的に到達する。将に数学だ。

私を手伝っていると言いたい訳ではない。むしろ私が自分の為に効率を考え体を動かし手足を使いトレーニングして居る様に思う。

家内は友人やご近所などのコミュニケーションを大事にし趣味の家庭菜園や卓球や楽器演奏など忙しくして居るがお互いに元気でいられることが一番である。